

映画「痛くない死に方」が好評公開中

# 私が思う最期のあり方

監督、出演者、原作者が語る

尊厳死のリアルを描いて好評公開中の映画「痛くない死に方」。

高橋伴明監督(71)、奥田瑛一さん(71)、宇崎竜童さん(75)、原作者の長尾和宏・尊厳死協会副理事長(62)に、映画で言いたかったこと、自分の最期のあり方などについて語っていただきました。

## 高橋伴明監督

### 自分なりの「死に方」の提案

自分はどうやって死ぬんだろうと考えたのは、65歳になったころからですかね。「死」は、自分の中では何ら特別なことではない。この映画を通して伝えたかったのは「死に方」に対する自分なりの提案です。押しつけがましくなく、自分はこう思いますよ、とそつと提案した、という感じでしょうか。

最期について、カミさん(高橋恵子さん)や家族に言っているのは「死に方」に対する自分なりの提案でした、という感じでしょ



## 奥田瑛一さん

### すでに戒名も書いてます

は「過剰な延命はするな」ということ。夫婦とも尊厳死協会に入っています。現状では、例えば倒れ

て運ばれて管に巻かれ、意識がない場合、あとでリビングウイルがあると分かっても、いつたん付けた管を取り外すことはできないじゃないですか。その辺のさまざまな整備が必要じゃないですかね。尊厳死協会もそうした普及・啓発にもっと頑張ってもらいたいと思いますね。



## 宇崎竜童さん

### 「さらっと」死ねるのがいい

と共感できる場面が多かったです。生きることは食べること」という言葉が何度も出てきます。



「人間を好きになれ」という言葉も。

45歳頃から「こういうふうに死にたい」とは思つていて、今回の映画で演じて背中を押された感じかな。最期の時については、子ども二人(安藤桃子さんとサクラさん)とカミさん(安藤和津さん)には言つてあります。ベッドに横たわり話すこともできない中、右手を上げたら「ありがとう、幸せだった」。左手は「不幸せだった」。何も上げない時は「まあまあだった」。覚えておいてくれよ、と。戒名は自分で書くことにして、

それは住職さんにも書いて見せています。もう完璧ですかね(笑い)。同世代に一つ言いたいことは、夜、3歳くらいからこれまでの人生を目をつぶつて振り返るといいよ、ということ。映像のように流れます。自分自身を振り返ることで、バーッと元気が出る。涙も出ますが、恐れないで人生を振り返ると、「死」が違う色で見えてくる気がしますよ。



来て、すーっと死ぬのがいい。

理想は、晩酌をして翌朝すーと死んでいる。甘党な自分なら、か氷小豆を食べて、翌朝はもうこの世にいない!!。若いころ、カミさん(阿木燿子さん)は「一緒に死んでもいい」とか言つてたけど(笑い)、最近、ちょっと変わつて死んだかな。今は、「私より先に死なないで」と言つてます。全部いろいろやって、私を送り出してからにして、と。そう言われてもねえ、どうなるかわからないし……。

亡くなるまでずっとベッドの中で演じたわけだけど、バンド仲間などの最期をみていて、辛い死に方をするのは可哀そうだなあ、とは思つていました。この映画には伴明監督の「死に方の提案」が自然に散りばめられていると思いますね。60代になつてから死を身近に考えるようになり、「さらっと」死ねるのがいいなあ、と思うようになりました。最期に管をいっぱい付けられて「痛い、痛い」と言つて死にたくないですよ。寿命が

## 長尾和宏さん

### 奥田さんの言葉を噛みしめて

自分の役を奥田さんが演じるところになつたと知つて、ほんと嬉しかった。自分が患者さんに言つてるのは「食べることは大事だよ」ということ。これは毎日言つています。おいしいものを食べて人生を終わりたい、とは誰もが思うこと。これまで、何年も食べさせてもらつていらない方をたくさん診てきているんで、奥田さんに言つていただいて改めて、重い言葉だなあと感じましたね。

「人間を好きになれ」「人間を診よ」は、普段の医療でももちろんですが、コロナ禍の中、ますます重要になつていると感じます。何がその人に必要なのか、幸せなんかを問い合わせながら医療をしていく。「人間を好きになれ」は基本で、この映画の大きなメッセージです。奥田さんの発した言葉を一つ一つ噛みしめながら映画を見てほしいですね。

健やかに生き、安らかな最期を

# Living Will

リビング・UIL

付録

協会創立45周年記念誌「歴史と役割」

## 尊厳死パンデミックと

日本リビングウイル研究会から抄録

第9回



2021年  
4月発行  
No.181

Living Will No.181 2021年4月発行

発行 公益財団法人日本尊厳死協会

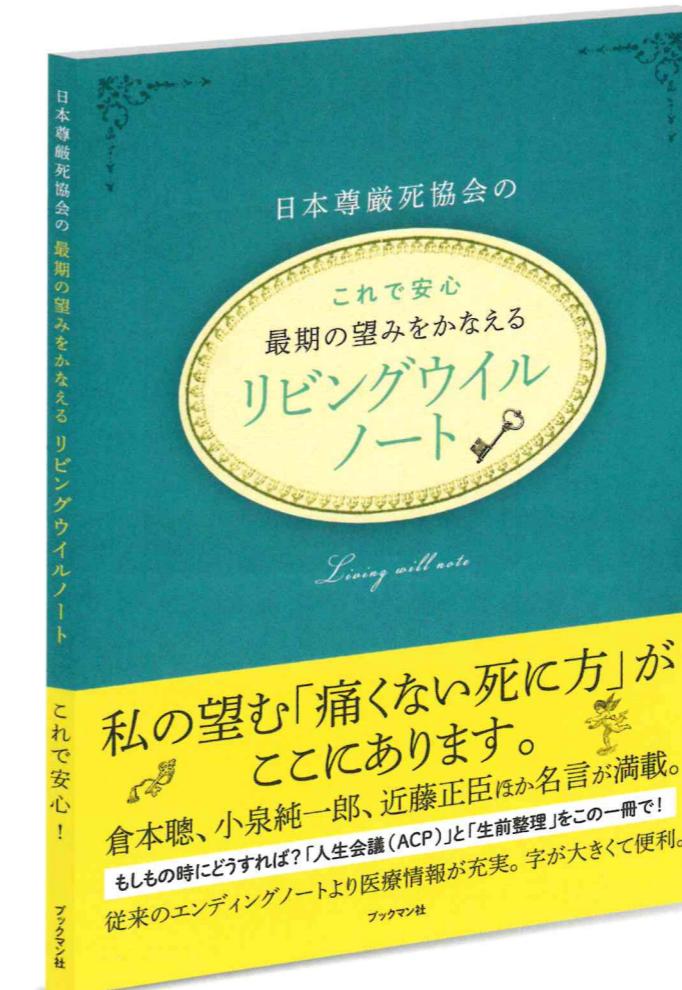
編集 協会会報編集部

デザイン FROG KING STUDIO

印刷 JPビジネスメール株式会社

日本尊厳死協会の出版案内

## 最期の望みをかなえる リビングウイルノート 私の望む「痛くない死に方」がここにあります。



好評  
発売中!

### 主な内容

●尊厳死協会の会報「Living Will」のインタビューに登場された、小泉純一郎・元首相や脚本家の倉本聰さん、俳優の近藤正臣さん、秋野暢子さん、仁科亜季子さん、作家の北方謙三さんの名言を再録。

●延命措置やACP(人生会議)など医療情報の解説や尊厳死協会の役割などのほか、「私の病気の記録」や「もしもの時の確認メモ」(健康保険証や基礎年金の番号など)、「終末期の最期の過ごし方の希望」「食べることができなくなった時の希望」……など、書き込むページや欄もたくさん詰まったエンディングノートの決定版。

●「旅立ったあとで~大切な人へのメッセージ」や「旅立つ前に会っておきたい人」、「葬儀に呼んでほしい人」を書き込むリストの欄も充実

発行:ブックマン社  
定価:1100円(税別) A4判104ページ

この「リビングウイルノート」には、  
あなたの「リビング・UIL」を入れるスペースがあります。  
是非お手もとにセットで!!  
もしもの時にそなえ、こころの「生前整理」を

